令和７年度 地域課題解決型事業活動プランコンテスト
表彰プランの活動状況報告

【優秀賞】 ※団体名五十音順

◆「すずらん高原ＳＤＧｓの森」地域活性化事業《複数年度事業》

御嶽鈴蘭高原観光開発株式会社



朝日地域では観光資源の衰退により市外の方々と交流を図る機会が失われつつあることから、当地域への交流人口・関係人口の創出と地域住民への豊かな森林資源の利活用に向けた意識醸成を目指して、朝日小学校児童８名への森林教室と植林体験、名古屋市民 60 名との森づくり体験を実施しました。





児童体験に参加された皆さんは五感で森の魅力を感じ、地域の森林資源の素晴らしさを認識し、森を守る意識が高まりました。

令和８年度では、引き続き地元小学生への継続的な啓発と、都市部団体向けの森林教室・造成体験の実施を通じて、関係人口の創出と朝日地域の活性化を推進します。

◆風がつなぐ平和の祈り『かざぐるままつり』《単年度事業》

かざぐるままつり実行委員会





世代を超えた交流の機会や平和の大切さに触れる機会・次世代に伝える機会が減ってきていることから、住民参加による平和の祈りを込めたかざぐるまの製作や設置、戦争体験者による講話をメインとした『かざぐるままつり』を開催しました。

平和への願いを込めた「かざぐるま制作ワークショップ」を実施し、小学生を中心に約 1,000 個のかざぐるまを製作しました。飛騨護国神社参道に展示したカラフルなかざぐるまは市民や観光客に喜ばれ、老若男女が参加することで地域の絆が深まりました。また、戦争体験者の講話は、平和の尊さを知ることができる貴重な学習機会となりました。

令和８年度では、かざぐるまの数を増やすなど規模を拡大して実施するほか、遺族会など関係団体と連携を進めることで継続的な平和啓発と地域の活性化を図ります。

◆奥飛騨の暮らしと観光を結ぶ拠点づくり ～奥飛騨スーパーの挑戦～《単年度事業》

有限会社 柏木商店





奥飛騨温泉郷地域において、遠方へ買い物が行けない方の買い物先確保が課題となっていることから、閉店した空き店舗を借り受け施設の修繕とトイレの増設により新たな買い物環境を整備しました。

令和７年５月23日『奥飛騨Foods Market』として開業し、「広くて見やすい」「商品が増えた」「トイレが使いやすい」と好評です。平日150～200人、週末250～300人の来店があり地域住民のほか、地域を訪れる観光客の立ち寄りにもつながっています。

令和８年度以降は客足や利用者からの声を踏まえ、品揃えやサービスにも工夫し、地域に愛される“地域のコミュニティの場”として継続運営します。

◆キッズフェスタ2025《単年度事業》

高山商工会議所青年部会





地域の若年層の市外流出による担い手の不足や地元で頑張っている事業者・産業に地域の子どもたちが関わることのできる機会が少ないことから、子どもたちの郷土愛の醸成と地元定着意識の向上を目指して、令和７年10月25日、高山駅西交流広場で『キッズフェスタ2025』を開催しました。

飲食・職業体験ブース21社の出店とステージ公演により、小中学生や保護者約1,500人に来場いただきました。イベントでは子どもたちによる「子ども店長」が接客・販売を実践することで、商いや企業を学べる場、社会生活に必要な体験ができる機会、郷土愛の醸成につながりました。

令和８年度以降も本イベントの開催を継続し、地域を担う子どもたちの育成を支援してまいります。

◆みんなで作ろう、野麦のお風呂と大地の再生《複数年度事業》

野麦学舎保存会



高根町野麦地区にある廃校舎『野麦学舎』を滞在拠点とする地域の活性化を目指し、訪れる方が長期滞在できる環境の整備として当校舎の修繕（お風呂の建設）と校舎周辺の環境再生に向けたワークショップを展開しました。









ワークショップでは全国から参加者 57 名が集い、地盤や建築の専門家を講師に迎えながら、３回にわたって１泊２日合宿を実施し、土間工事の完成まで進めることができました。想定を上回る参加によって地域と外部の交流が深まり、野麦学舎を中心に実施したイベントでの参加者も増加しています。

令和８年度も引き続きワークショップを開催し令和８年 11 月の完成を目指します。

◆アンダーツーリズムから町興しを！《単年度事業》

飛騨あさひ観光協会





朝日地域は豊かな自然や歴史などの地域資源を持ちながらも、地域内外にその魅力が十分に伝わっていないため、当地域が持つ魅力を掘り起こし観光資源化することでの交流人口の増加や地域住民の郷土愛醸成を目指して、当地域の風景や伝統文化、産業をＥバイクを活用した住民参加のイベント、ガイド育成研修、住民参加の試乗会、プロモーション活動を実施しました。

令和７年 11 月からはツアー販売を開始し、外国人利用客を獲得。SNS フォロワー数も大幅に伸ばし、住民も地域資源の価値を再認識し地域への誇りが醸成されました。



令和８年度以降は、オンライン旅行サイトとの連携やキャッシュレス決済導入で予約・支払いの利便性を向上させ、外国人に対応できる英語ガイド育成を強化。隣接地域との連携を深化させ、当地域にとどまらない広域的な観光ルートの開発・発信に取り組みます。

◆宮笠を守ろう ～みややんプロジェクト～《単年度事業》

高山市立宮中学校生徒有志

一之宮地域の伝統工芸品『宮笠』の担い手の不足・技術継承の危惧を課題と捉え、宮笠の知名度向上を目指して、「宮笠を守ろう ～みややんプロジェクト～」と銘打って取り組みました。

地域イベントへの参加や宮笠・笠ヒデクラフト体験、修学旅行（東京）でのＰＲ活動（体験会の開催）、一之宮町文化祭・水無神社初詣客へのＰＲ、宮笠保存会との連携等を実施しました。





多くの世代との交流ができ、宮笠の認知を高めることができました。

令和８年度は活動を後輩たちに引き継ぎ、「宮笠」に加えて「臥龍桜」や「梅花藻（ばいかも）」等、地域の学びを深める“さくらプロジェクト”に取り組み、より多方面への発信を進めます。

◆未来の子どもたちへ、守る！繋げる！地域の食文化を！

～なつめお土産品開発プロジェクト～《単年度事業》

みんなの庭



地域で古くから伝わってきた『なつめ』の食文化が失われつつあることから、子どもたちへの伝統文化の継承のため、なつめの収穫から製造・販売までを地域の皆様と協力しながら進めました。

飛騨山中和紙と飛騨版画を使った特色あるパッケージ製作と版画ワークショップを開催し、なつめの新しい食べ方や保存方法を広く周知することができました。地域の関心向上と海外観光客からの好評が得られ、地域外からも収穫協力や購入のお声をいただきました。



令和８年度以降も引き続きなつめ製品の製造・販売のほか、収穫量確保に向けた地域への周知、子どもたちになつめの歴史を学べる機会の創出を予定しており、地域の食文化を次の世代へ繋いでいきます。







◆柳島にぎわいプロジェクト《複数年度事業》

柳島にぎわいプロジェクト実行委員会

地域住民の高齢化や若者の地域外への流出により地域コミュニティが衰退しつつあることから、地域の活性化や世代を超えたつながり作りを目指し、久々野町柳島地区において『柳島にぎわいプロジェクト』と銘打ってこどもキャンプや交流フェス、写真展を開催しました。



野菜収穫やピザづくり、音楽コンサート、白黒写真のカラー化など、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し、地域住民の交流を深めることができました。



令和８年度も引き続きこどもキャンプや交流フェス、写真展を継続開催するほか、地域の団体・事業所とも連携して新たな生業の創出に向けて取り組むなど、新しい取り組みにもチャレンジします。